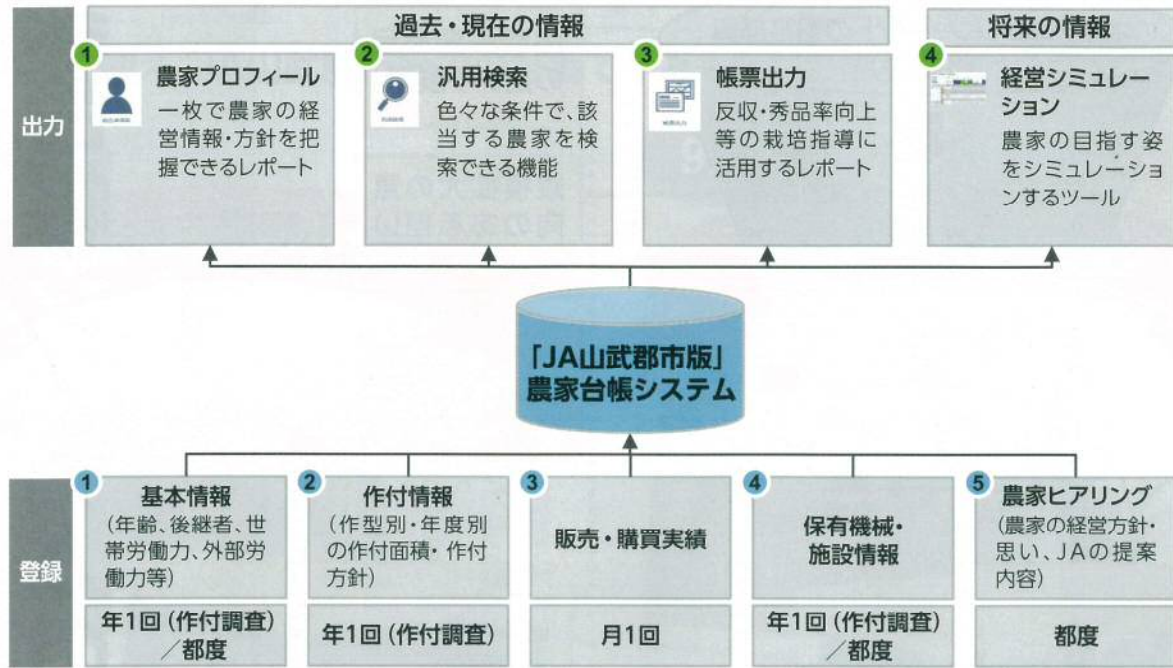
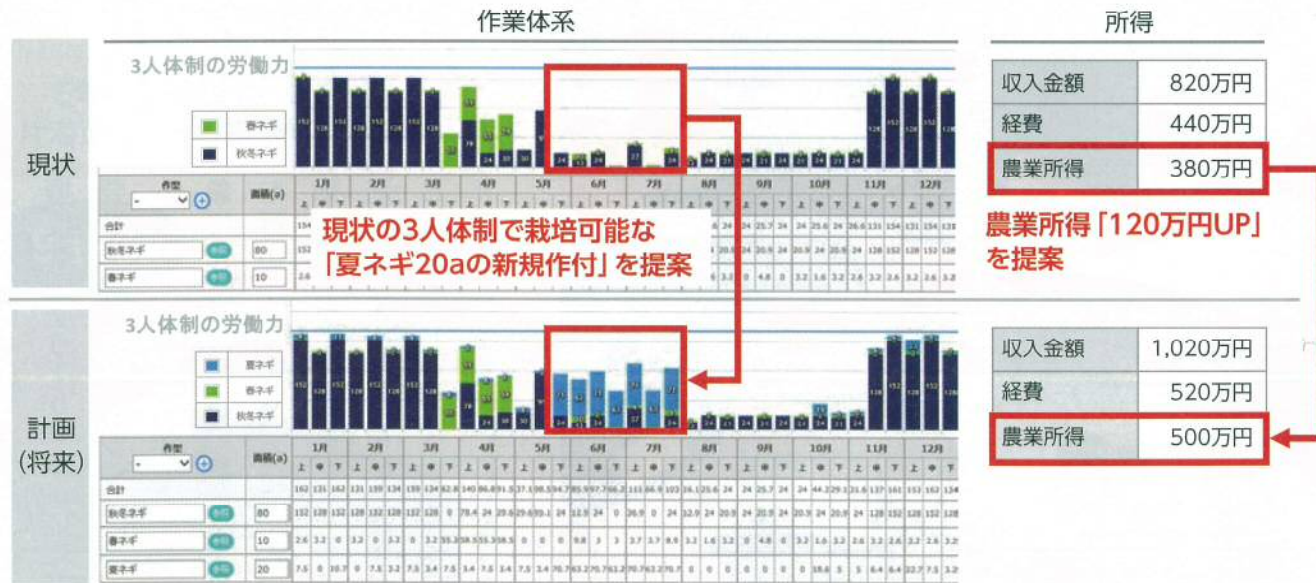


図① 「JA山武郡市版 農家台帳システム」の概要



図② 経営シミュレーションイメージ：「夏ネギ新規作付による120万円の所得増大の提案」



あり、JAは経営シミュレーションを活用し、担い手農家の将来に向けた経営を一緒に考えて、「つくる経営指導」に取り組んでいます。

JA山武郡市では過去に、農家台帳を作ったが運用されなかったという苦い経験がありました。その原因は、これまでの農家台帳が紙帳票であったため、情報更新に多大な工数がかかったことと、作った後の活用業務を定めていなかったことです。前者は、データ連携・更新のシステム機能の開発などにより解決を図り、後者は、年間スケジュールにおいて、農家台帳システムを活用し、「誰が、いつ、何を」の「か」のプロセスと会議体を事前につくり、実施することで対応することにしました。

**JA全体で
経営指導を
実践するための
プロセス・会議体**

所得増大に向けた 提案型の経営指導を スタート!



JA山武郡市は、「農家の所得向上」に向けた、農家への経営指導に活用する「JA山武郡市版農家台帳システム」を開発しました。現在、その農家台帳システムを活用し、担当者が担い手農家を訪問。所得向上に向けた提案を行っています。今回の特集では、平成28年に策定した農業振興計画2016の進捗状況として、その活動の一部をご報告します。

農家の経営方針・「思い」も登録するシステムを構築

JA山武郡市が農家台帳システムを開発した背景には、JAが農家の所得向上のための施策に取り組みするためには、「まず担い手農家の経営状況をJA職員がしっかりと理解しなくてはならない」という点にありました。そこで、JA内の各部署で把握していた農家の経営情報や販売・購買などのJA取り扱い実績の一元化を進めました。さらに、これら数値情報だけでは把握できない担い手農家の経営方針、「思い」をヒアリングし、登録できるシステムとしま

した。これにより、担い手農家は、「作付面積・販売がどのくらい伸びているか」「どのような経営方針・思いで農業をしているか」を、一枚のレポートで把握できるようになりました。JA職員が担い手農家を訪問する際、まず知っておくべき情報をJA全体で共有できるようにしました(図①)。

過去だけでなく、農家の将来の経営をシミュレーション

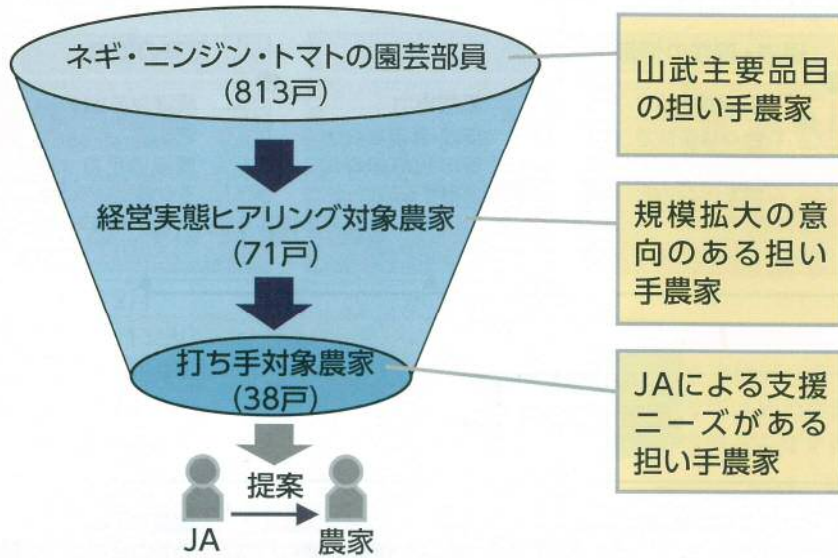
2016年に策定した農業振興計画の主な目的である「農家の所得向上」は、過去ではなく、「将来の話」であるため、担い手農家へ所得向上のための提案をする際には、将来の目指す姿を

具体化することが重要になります。そこで、農家台帳システムでは、反収・秀品率等の実績の出力に加え、農家の「目指す所得」を達成するには、「どのような作型・面積で」「何人体制で」「どのような機械で」「農業経営をすればよいかの、将来の経営シミュレーション」を出力することができるとしました(図②)。

将来、高齢化等により農家数の減少が予測される中、地域農業を維持するためには、規模拡大を図る「外部雇用を含む経営体」の重要性が高まっています。このような経営体は、将来の目指す姿に向け、作型・面積、人員体制、機械等の「資源の最適化を図る経営」をしていく必要が

農家台帳システムの活用！

図③ 平成29年の農家訪問・提案活動



経営シミュレーションを担い手に提案する訪問活動

実際の取り組みとして、農業振興計画2016で定義した主要3品目(ネギ、ニンジン、トマト)の担い手農家813戸を対象に、作付計画・経営方針調査を行い、その中で、規模拡大の意向のある担い手農家71戸を訪問。将来の経営目標、課題をヒアリングしました。その後、ヒアリング結果をもとに、地区・

ブロックごとに、本所、営農・経済センターの担当者による会議体で、各担い手農家へのアプローチ方針を策定しています。現在、JAによる支援ニーズがある担い手農家38戸に対し、農業所得向上に向けた打ち手としての施策(新規作型導入、労働力確保など)と、それを実施した場合の所得を示す提案型の経営指導を実施しています(図③)。

今後、JA山武郡市は、農家台帳システムを活用した農業所得向上の取り組み提案を拡大していく予定です。また、これまでの訪問活動に加え、担い手農家が営農に悩んだときの相談窓口の設置を検討しています。窓口では、経営診断、法人化、農地、外部雇用など、地域の担い手農家が悩んでいることに対し、農家台帳システム、経営シミュレーションでの経営分析などで応えるサービスを開発・提供していく予定です。